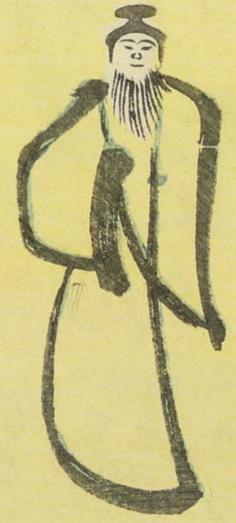
北雪美談時代加々見
外題豊国画
へ13
3740
45

門 へ13
號 3740
巻 45

三藐院殿御筆

唐衣
きつつなれにしつましを
はるばるきぬるたびをしぞおもふ

慶長庚戌仲秋廿五日



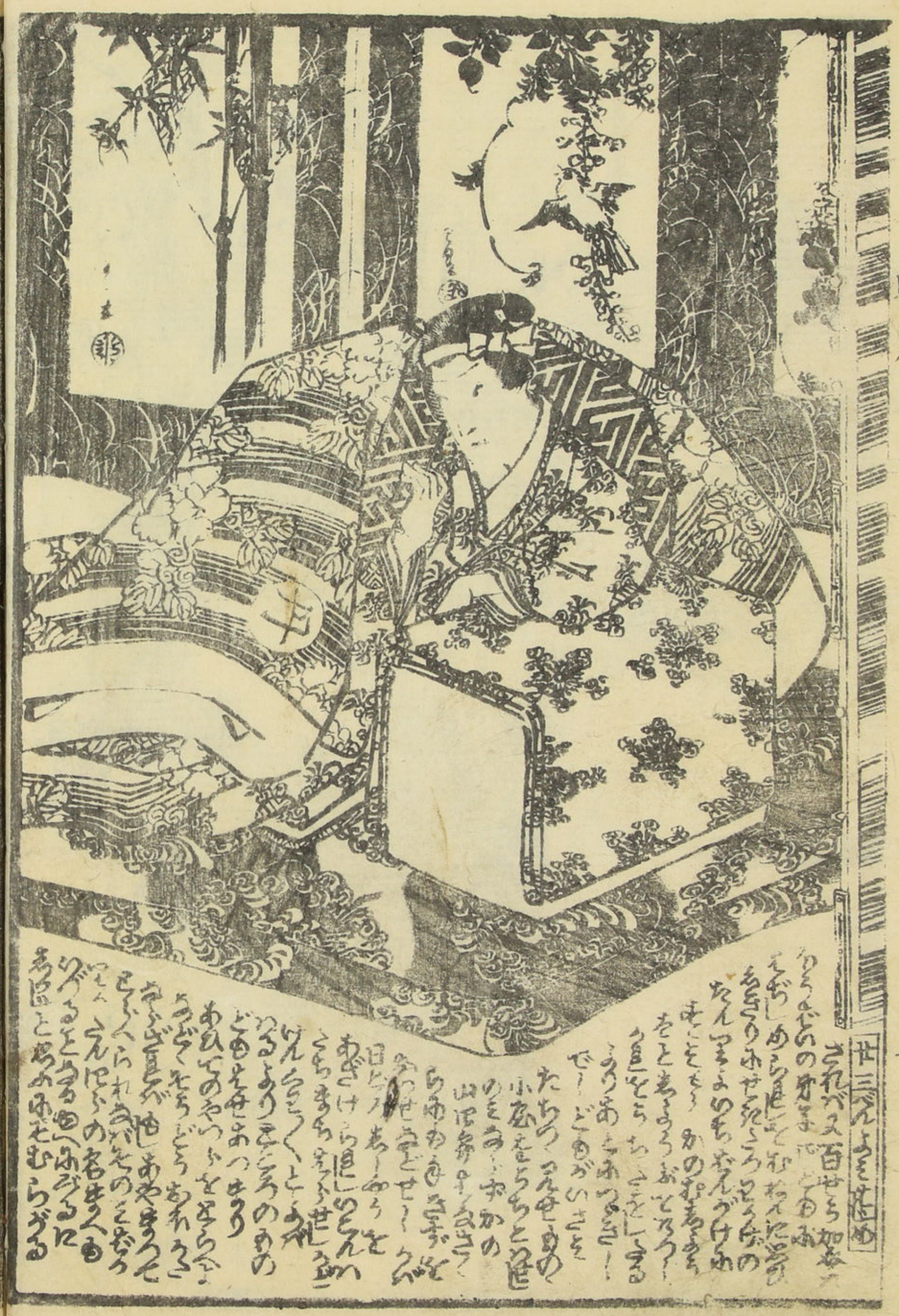
孫康が雪と聚め、車胤が囊に螢を盛り、夜学の窓に似て似ざれど、最々の寒さにも、三伏の暑きにも園炭を懐き、蚊遣をたゆまし、世間の人乃寝ぢまるまで、眼ハ油皿の如くなれども、灯心なりも痩腕おとりなれば何様やう化生のめけど、千變万化の自在を得ばいかに、條なる野語を、述つ綴る夜業の丈儿憶いを雪程積らば、螢の尻ゝど光もあれを復一帙に下染の墨さえのまぬ乾ねを、梓に上しそ笑ひ備ふ

万延二
酉の春 爲永春水誌

佐原
道平
道平が渾家若芝

間詩
久根藏

寿賀正方の
令妹雪媛
町圖
窓雛遊
戯之体



道

道

為永春水作

芝神明前
若狭屋与市板

風流亜平切
越前奉書紙
伊豫奉書紙

縮し
うんもん
仕立切

仕舞百図 全部
洞都画

忠臣義士銘々傳
一組 歌川芳虎画

当年
新板
春の土産
彩画

目録色

東海道絵
千代形こふ

神奈川
若林豊蔵